

絵画の具体的指導目標の 設定について

富 田 陽 子

「子供の絵をどう見たらよいのかしら」とのように指導したらよいのかしら」

就任第一歩、壁一面に貼られてある子供達の絵を見ながら、私は迷い、いろいろと考えました。兎に角子供をしることだ、私は勇気を出して子供達の中に飛び込んでいきました。幾冊となく本も読み、いろいろと人の話も聞きました。が、実際、子供達から教えられた数々の事柄は、常に新たな感激と勇気と反省を与えてくれました。いつも子供達に教えられながら、子供の絵を理解することに努め、子供達と共にひたすら絵をかくことを楽しんで来た一年間でした。

今年はず年の体験の上に、更に一歩々々綿密な計画の下に進んでいきたいと、子供達の実態調査に基づいて、私の組の具体的指導目標を設定して指導を進めて参りました。未だ経験も浅く、資料にも乏しく、甚だ拙いものではあります。が、此処に纏めて発表させていただきます。

I 絵画の一般的指導目標

(1) 絵画の目標

普通、子供は満一年と六ヶ月頃から絵を描き始めると云われています。新聞紙の間には

さまれて来る広告の裏に、或は兄さん姉さん達のノートに、又時には壁や襖にまで描きぐる絵。この「み、ずののたくり」や「ぐるぐるがき」のように、最初は単なる身体運動的なものにすぎなかつたものが、それらの中に何かの対象を見出し、「お山」とか「お菓子」とかの説明がつけられるようになり、やがて「描くもの」を意識してそれを表現するようになります。その時期については、子供達を取り巻く様々の環境や発育の違いによって個々の差はありますが、このような発達段階を経て入園して来る子供達の絵を幼稚園教育においては、どのように取り上げたらよいでしょうか。

学校教育法第七章第七十八条の第五項には「音楽・遊戯・絵画・その他の方法により創作的表現に対する、興味を養うことと示されている。更に「保育要領」においては、保育内容の第七「絵画」の冒頭に「絵を描くことに興味を持たせ、よく描けたかどうかという結果よりも、楽しみながら描くことの喜びを味わわせることが大切である。のびのびとした気持で自由な表現をさせ、表現することの喜びを十分に味わせ創作的表現に対する、興

味を養う。」と述べている。

Homar Lane ホーマー・レインは "Talks to Parents and Teachers," (親と教師に語る)の中で「人間の精神はその発展の最初から——即ち生れるとすぐ——二つの異つた要求をもつている。それは所有することと創造すること。もつていることと実験すること。まえに経験した快楽を繰返すことと、新しいことをなしとげる興味の為に新しいことをすること。の二種類である」と述べています。

又、フランツ・チゼックは「画家を養成することではなく、児童の創造力を発達させることとであり、そしてひとたび創造力がめざめれば人生におけるすべての前途がこの創造力によつて影響されるのである」ともいつております。

さて、この「創作的表現に対する興味」を養う為には、どのように指導したらよいのでしょうか。それには先ず指導の目標をしつかりたてることが必要であると思ひます。

(2) 絵画の指導目標

その指導目標については、一般的には現在のところ未だないようです。強いて求めるならば、「指導要録」の絵画製作の項に示され、

更に「指導要録の解説」の中で説明されています。しかし、これは「評価規準」であつて「指導目標」ではありません。けれども、評価はその目標に対するものでありますから、逆にこれを目標とみなして取扱つてみる事としましょう。今此処にそれをあげてみますと

- 1、喜んで絵を描いたり物を作つたりする
- 2、絵を描いたり物を作つたりして自分の気持を表現する。
- 3、形や色や模様に関心をもつ。
- 4、身近かな造形品に関心をもつ。

の諸目標となります。しかし、この四つの指導目標の表現は非常に抽象的で、これを實際保育にそのまま、取り上げるには種々の困難があります。そこで、これらの指導目標を日常の保育に役立つよう、更に具体化する必要があると思われれます。(小学校においても、図画と工作は図画工作科として一科目になつておりますし、幼児指導要録にも絵画製作となっておりますが、今回は特に絵画についての具体的指導目標の設定について述べたいと思ひますので、一寸この点をおことわりして置きます)

II 具体的指導目標

(1) 設定の方法

それでは、どのようにして設定したらよいでしょうか。私は、これを発達段階と小学校教育との関聯の二つの立場から更に具体化することにしました。

(A) 発達段階

発達段階については人により色々の分け方をしてはいるようですが、前に述べたホーム・レインの分類によれば、誕生より十七才迄の子供を心理的にわけて、

- 誕生〜二・三才——幼児時代
 - 三才〜七才——空想の時代
 - 七才〜十才——自己主張の時代
 - 十才〜十七才——協同の時代
- の四段階としています。

更に絵画表現の発達については、

- 一才〜二才 錯画前期
 - 二才〜三才 錯画後期
 - 三才〜四才 図式表現前期
 - 四才〜五才 図式表現後期
- 期

- 五才〜六才 構成的表現期
 - 六才〜七才 写實的表現期
- 写實的表現期

に分類されます。

以上の分類からみますと、幼稚園における発達段階の位置は、心理的には空想の時代であり、絵画表現においては図式表現前期から構成的表現期の間にあることとなります。この時代における発達の特徴を次にあげてみますと、

1、図式的な表現である。

即ち、簡単な線描によつて、物の形を暗示的に説明的に表現する。

例えば、短形に丸を沢山つけ、煙突をつけて汽車にしたり、丸の中に小さな丸を三つ描いてお母さんだと説明したりする。

2、描かれている一つ一つに意味があるのであつて、一画面にたとえば三つの物を描いても、子供はこの三つの関係とか統一とかいうことは考えていない。

例えば、人のわきに人程大きなチューリップを描いても不自然を感じないもののが為である。

3、実物の通り、見える通りに描かないで、実物からの印象に基づいて頭の中にまとめられている観念を投出して描いている。

る。例えば、この時期の子供が図式的表現をすることや、家を抽へ場合、戸や壁にさざぎられていて実際には外から見えない電燈を抽いたり、電車を抽くときに外からは見えない乗っている人の足まで抽いたりするような、所謂透明描写とかレントゲン描法とか云われている表現をするのはこの例である。このような表現は未開人にもしばしば見られる。

4、子供独自の立場において、立体を平面化することや遠近感をつけることを工夫している。

例えば、机を囲んでいる子供達を描く場合に全部を寝たようにかいたり、道路を描くのに遠い所も近い所も同じ幅に描いている。これは、子供は一つ一つの物を常に最も描きやすい方面から描くだけであつて、移動視点法などとも呼ばれている。この方法は、古来からの日本画絵巻物などに現れた大和絵の遠近法や古代エジプト人の絵に用いられている。

5、以上の諸点からみて、この時代の子供の表現は非常に主観的・自己中心的であるとか、空想的であるとかいわれている。

6、この時期の子供は身体発達の状況からみて全身運動が活潑であるから、余り細かい仕事を長時間続けることが困難である。

即ち、小さな紙に抽くよりも、大きな紙や黒板や或は大地に思う存分抽きたがる。しかし、次第に手先が器用になり発育が休まるので、五六才頃には次第に細かい所まで抽くようになる。

7、この時期の子供は、かくことそれ自身に魅力をもち出来た結果については、まだそれ程関心を持たない。即ち、成就のいかんよりも表現活動そのものの喜びの方が大きい。

8、この時期の子供の表現は、知識にとらわれることなく、自分の思っていることを平直に表現する。そこに純一無雑なものがあつて捨て難い味わいを生ずるのであるが、幼児は必ずしもそれを自覚していない。

9、主観的・自己中心的であるこの時期の幼児は、他の作品を批判的に見る力はまだ発達していないから、ほんとうの意味の鑑賞は困難であろう。しかしよい作品を環境において、常にそれに親しませるこ

モーター・ボート	カ	え	亀	お	宿	レ	ント	病	ベ	と	舟	魚	バ	浅	稲	ほ	如	お	湖	火	お	目	い	井	水	積	主 な る 秘 験	
	び	が	風	信	の	の	突	院	ツ	ん	釣	ツ	間	毛	う	都	の	菜	事	し	ち	高	戸	運	家			
	だ	や	呂	柱	車	突	突	車	取	ぼ	籠	火	様	店	き	中	子	高	高	高	高	高	高	高	高			

入園式・園舎の見学・先生・お友達・お花見

子供の日・鯉のぼり・武者人形・母の日遠足
・十姉妹の飼育・おたまじやくしの観察

入梅・時の記念日・金魚・田植

七夕祭・水遊び・バツタ取り

目標をたてる為に、幼児・家庭・地域社会・小学校入学児の実態を調査してみました。

(1) 幼児の実態調査

先ず入園当初の状況について

(a) 入園前のクレヨンの使用調査(父兄を通して調査)

(b) 入園当初の幼児の観察記録(教師)を行いました。(第二表参照)

その結果(a)については四十六名中十三名が入園前に於て全タクレヨンを使つていないことが解りました。これを百分率になおしてみますと28%に当ります。

(b) については、四月一杯絵を描きながらなかつた者は、男児三名女児二名計五名でした。更にこの五名については、その原因を極める為に第二表(b)のような事項について調査を行いました。これをみますと、五人の共通している点は、いずれも社会性に乏しいということです。即ち、男児K・Mの二名は遊びに参加することが出来ずいつもぼんやりと唯立つてみていますし、Tは一応仲間に加わりますが非常に粗暴ですぐ女の子をかまったり友人をた、いたりします。又、女児Tは家庭にあつては非常に小さい子の面倒

をよくみて遊ばせるのだそうですが、幼稚園ではいくら誘つても遊びに参加せずぼんやりみえています。Aは昨年姉と二人で入園したのですがおべんとうやお八つが一人で食べられず姉にいやがられて中途退園してしまつた子

で、未だに一人で食べられず入園以来一言も云わず部屋の隅に立つていたりといった所謂問題の児です。ところが、これら五人の子供達はAを除いて(絵合せや積木等)はよく出来ますが全タロを調こつとけませんので指数を出

(第四表) 色 彩 調 査 (その一)

色名 月別(女別)	色 彩 調 査											合 計
	赤	橙	黄	黄緑	緑	青	藍	紫	黒	茶	計	
4	男 13		8	2	7	13	5	7	12	18	11	
	女 21	14	15	13	15	11	9	12	18	13		
5	男 15	3	6	5	6	12	5	6	18	12		
	女 20	14	14	12	11	14	7	10	22	12		
6	男 13	5	3	7	6	13	4	5	13	9		
	女 21	15	16	13	17	18	10	13	20	17		
7	男 14	6	5	6	4	14	9	5	13	13		
	女 22	15	13	13	15	15	9	6	17	17		
計	男 55	14	22	20	23	52	23	23	56	45		
	女 84	58	58	51	58	58	35	41	77	59		
合 計	139	72	80	71	81	110	53	64	133	104		

(その二)

色別	性別		一色	二色	三色	四色	五色	六色	七色	八色	九色	十色
	男	女										
4	男	2	1	1	5	4	3	1	2	1		1
	女		1	3	4	4	4	5		2	2	2
5	男	3	6	1	4	3	1	1	2	1	1	
	女		2		2	3	3	3	7	1	3	
6	男	3	3	4	5	3	1	1	1	1		
	女	1	1				1	6	7	3	3	2
7	男	1	1	7	4	3		2	2	2	1	
	女		1	1	3		8	7	7		2	1
計	男	9	11	17	17	12	3	7	5	5	2	1
	女	1	5	4	9	8	22	21	5	5	10	5
合計		10	16	21	26	20	25	28	10	12		6

しかねています。智能指数も普通で級の平均指数よりは寧ろ上位にある位なのです。以上いろいろ考察してみますのに、これらの子供達に一番欠けているものは情緒の不安定だと考えられます。即ち、家庭生活から幼稚園の

集団生活に入ること、幼児にとつて精神的にも肉体的にも非常に大きな生活の変化であつて、これら五名の幼児達は他の幼児に比して色々な理由からその切り変えが遅い為に情緒的に不安定な状態にあると考えられます。

次の幼児の絵の表現について

(a) 発達段階 (第三表参照)

(d) 表現内容 (同)

(c) 色彩 (第四表参照)

の三つについて更に調査を行いました。

その結果 (a) については、錯圖時代の者が男児に九名女児に四名ありました。更にこの錯圖時代の幼児を分類してみました、線のみのみなぐり描きは、男児三名、女児一名、画面の塗りつぶし描きが男児六名、女児三名、意味はわからないが輪廓の中にきれいに色を堅つている所謂象徴圖が男児に二名ありました。

(b) については三図の通り、乗り物・家旗・空等に興味がみられましたが、人物は殆ど描かれていませんでした。

(c) の色彩については男児女児共に赤を好んで使つて居ります。色数について、男児は三色、女児は六色で、女児の方が多色であることが解りました。

(2) 家庭の実態調査

家庭の実態については、第五表に示したような事項について調査を行いました。その結果、大体の者は家庭でも絵を描くこと、絵を

(第五表)

家庭調査 (その一)

		たいてい	ときどき	ぜんぜん					
1 お宅のお子様は家にいる時も絵をかきますか。		7	38	1					
2 お子様は絵を描いている時お家の人がそばでみてあげますか		14	30	2					
3 主としてみてあげる人は誰ですか		父	母	父母	祖父	祖母	兄	姉	その他
		1	31	5	2	1	0	2	0
お お ら 様 の 絵 に つ い て 主 と し て ど の よ う に 指 導 し て ま す か	(A) 描き始めから終わりまでみてあげる			3					
	時々来てみてあげる			25					
	完成作品だけをみてあげる			16					
	全タみてあげない			1					
	(B) 子供の描くまゝにたゞ黙つてみている			15					
	絵本や手本をみて描かせる			5					
	間違っている所や描き足りない所を批判したりなおしてあげる			12					
	描いた絵をみて説明させ不足や間違いを思い出させる			3					
	眼の前に物を置いてその通りに描かせる			2					
	傍でたゞにここに置いて出来上つた作品をいつも賞めてあげる			10					
(C) 作品はお部屋に貼つてやつたり自分で貼らせる。			9						
きちんと纏めてしまつておく			9						
受持の先生のところにもつていく			2						
作品は子供の勝手にさせておく			24						
5 お宅ではお子様の為にどんな絵本を与えていますか	月刊雑誌	「キンダーブック」46「小学一年生」1「小学二年生」2「幼稚園」2「幼年絵本」2「幼稚園ブック」1							
	単行本	乗物19動物20童話12童謡10物語8その他5							
6 入園前にクレヨンを使っていましたか。	使っていた	33							
	使っていない	13							

家庭調査 (その二)

Ⅱ 父母の年令		
(年令)	(父)	(母)
20代	1名	5名
30代	24	33
40代	18	8
50代	2	0
計	45 (一名死亡)	46

Ⅰ 職業	
公務員	22(名)
会社員	11
商業	4
技術者	3
自由業	2
農業	3
工業	1
計	46

II 父母の教養		
(学歴)	(父)	(母)
小学校卒	15	18
中学校卒	13	26
専門学校卒	9	2
大学卒	8	0
計	45	46

IV 園児の家庭に於ける位置	
一人子	3名
末子	20
長子	6
其の他	17
計	46

V 兄弟数	
一人兄弟	3名
二人兄弟	8
三人兄弟	19
四人兄弟	7
五人兄弟	4
六人兄弟	3
七人兄弟	1
八人兄弟	0
九人兄弟	2
計	46

描いている時には親や兄弟の干渉を受けていること、しかも殆どが母親であることが云われます。指導については親の大半が多少の關心をもっていること作品の処理については殆ど関心が払われていないこと等があげられます。又、絵本の調査については、全部が絵本を購読しており、種類としては、動物や乗物の絵本が圧倒的でした。

(3) 小学校入學児童の実態調査

本年度三月に幼稚園を卒業して附屬小学校に入學した子供の實態調査です。これは、實際に參觀したり記録したりすればよかつたのですが、それが出来なかつたので、小学校第一学年担任の先生方からの報告を纏めることにしました。その結果を要訳しますと、

- 1、描くことには興味をもっている。
- 2、所謂「幼稚園画」といわれる概念的・固定的な画が多くて、この殻から容易に脱し難くその指導に骨が折れる。
- 3、絵画経験の少ない直接入學児童に比べれば、勿論表現力も豊かであり、表現内容も豊富である。

(4) 地域社会の實態調査

地域社会の特徴をあげてみますと、

- 1、軍隊都市として発達した町で、軍人相手の店や面会人をとめる旅館や民家等が終戦後も僅かに影をとめ、学校が建つに及んで文房具店・本屋等が二・三ある程度で、商店街としての景観は殆どなく、神社内のマーケットがそれといえはいる程で町としての活気はない。

- 2、終戦後は住宅難にあえぐ人々が入り込み又引上げ者、戦災者・開拓者等も加つて人国は増加したが、その大部分は千葉・東京方面への勤人である。
- 3、交通機関としては、両口・銚子間を結ぶ総武本線が通り、こゝに四街道駅が附設されている。又最近、京成バスが汽車の時間を縫つて往来するようになった。
- 4、千葉大学教育学部分校を始め小・中学校等学校が多く、学校都市としての形態をもっている。
- 5、広大な下志津の原は戦後演習場から開拓地となり、引上げ者や元軍人等が開拓に當っている。
- 6、総武線を境として南の低地帯は、田畑で古くからの土着民が農業に従事している
- 7、澁粉工場や製糸工場等いくつかあるが、いずれも極く小規模のものである。

8、常設映画館・公園等の娯楽施設は全くない。

以上述べた様に所謂「町」としての景観は殆どなく、美的環境に乏しく、子供の生活に与える刺激は少い。しかし、家庭調査（その二）の職業調査の結果によれば、殆どの家庭が公務員・会社員の勤人であり、又千葉・東京への往来も容易であり、都会文化の流入はあると考えられます。又、春夏秋冬を通じて変化する広大な下志津の原を中心とする大自らの環境に恵まれております。

(5)私の組の具体的指導目標
 以上の実態調査に基づいて私の組の具体的指導目標を次の様に設定致しました。（第七表参照）

この具体的指導目標では、例えば「絵の具をこぼさないようにする」とか「仲良く道具を分け合つて使う」等の躰の面は除き、指導上の諸注意として別に上げること、しました。なお、この目標は、もとよりどの子も此の線まで到達させるといふものではなく、教師として一応この程度まで指導することを目標とすればよいのではないかというものであります。

(第七表)

具体的指導目標

- ①材料
- ②表現内容
- ③表現方法
- ④色彩模様
- ⑤鑑賞

期 学 二 第	期 学 一 第	字 期
①・ホスターカラーを使って自由に伸び伸びと描く。 ②・月・星等天体に興味をもつて表現する。 ・昆虫・獣・鳥等動物に興味をもつて表現する。 ・果物や野菜等に興味をもつて表現する。 ③・一画面内の対象に關聯をつけてかく。 ④・混色に興味をもつ。 ・色々な形や色の物を整理したり並べたりすることに興味をもつ。 ・花を飾つたり、作品を貼つたりして、美しい環境を作ることに興味をもつ。 ⑤・他人の作品に關心をもつ。	①・クレヨンを使って自由に気持のまゝを表現する。 ・フィンガーペンで気持のまゝに伸び伸びと描く。 ・黒板・地面・大きな紙に思う存分に描く。 ②・花・木・人・家・乗物・地面・空・太陽等に興味をもつて表現する。 ・雨・雲・夕焼・虹等氣象に興味をもつて表現する。 ③・一画面にいくつかの対象を表現する。 ④・色彩に好みをもつ ・美しい形や色の物を集めて遊ぶ。 ⑤・絵本を喜んでみる。	具 体 的 指 導 目 標

期 学 三 第

- ① 色々な材料を使つて自由に表現する。
- ② 社会の出来事に興味をもつて表現する。
- ③ 人物に簡単な表情をつけることを工夫する。
 - ・時間の推移を表現することを工夫する。
 - ・立体感・遠近感を工夫して表現する。
 - ・グループで協力して楽しく描く。
- ④ 適当に色々な色を使つて表現する。
- ⑤ 作品に対して好き嫌いがわかる。

上述の実態調査でも明らかかなようにその発達段階は正に十人十色で、此に個人指導の重要性があるのであります。具体的指導目標に基づきながら個々を指導し、個々を指導しながら、全体をみつめるといふように指導して行くことが望ましいと考えます。

以上、絵画の具体的指導目標の設定について述べて参りましたがこれに基づき一年間の指導を通して具体的指導目標に対する検討がなされなければならぬと思ひますが、その評価については後の研究に譲りたいと考えます。

(千葉大学教育学部附属幼稚園教諭)

予 告

教育實際指導研究会のおしらせ

今年も左記要項によつて、教育實際指導研究会を開催いたしますから皆様多数御出席下さいませようお待ちいたします。なおくわしいことは次号でお知らせいたします。

期 日 昭和二十八年六月、四、五、六の三日間
主 題 「基礎能力の伸長と教材教具」の主題の

下に、実地指導、研究発表、研究協議会講演など。

昭和二十八年五月

お茶の水女子大学教育学部
附 属 幼 稚 園